

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2017年12月 No.49 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1  
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## ロヒンギャ難民支援活動

2017年8月末より、ミャンマーからバングラデシュに移動しているイスラム系少数民族・ロヒンギャ難民の数は増加の一途をたどり、国連人道問題調整事務所 (UN OCHA) によると、10月29日時点で約60万人、以前からバングラデシュに住む難民も合わせると82万人になります。

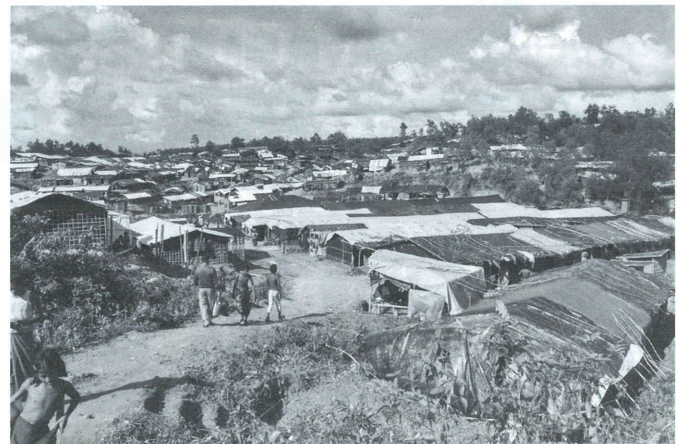
AMDA バングラデシュは、難民キャンプの環境悪化を憂慮し支援活動を決定。9月21、22日にコックスバザール県で行った調査では、安全な飲料水が不足するなど感染症がまん延しやすい状況にあることがわかりました。

これを受けて、同県ウクヒヤ地域にあるクトゥパロン難民キャンプの一角に仮設診療所を開設。10月22日より医師2人をはじめ、救急救命士、助産師、調整員など9人で構成する医療チームが支援を継続的に行っており、1日平均120人を診療し、無料で医薬品を提供しています。特に高齢者、子どもの健康状態や妊婦の適切なケアが課題となっています。

11月8日にはAMDA本部から看護師兼調整員1人を現地調査のため派遣しました。



AMDA バングラデシュによる仮設診療所での診察の様子



コックスバザール県の難民キャンプの様子

### ロヒンギャ難民支援へ募金活動

AMDA は、ミャンマーからバングラデシュに移動するイスラム系少数民族・ロヒンギャ難民を支援するため11月10日、JR岡山駅東西連絡通路で募金活動を行いました。

会場には難民キャンプの様子を紹介したパネル(A3判)3枚を掲示。ブルーのアムダカラーのジャンパー姿の職員とボランティア計9人は、支援を呼びかけるジャンボ看板(横110㌢、縦76㌢)を手に、市民に協力を求めました。

市民からは「難民の置かれた環境を知ると心が痛みます」「AMDAさん、頑張ってるね」と温かい励ましとともに、快く募金に応じて頂きました。

AMDA本部(岡山市北区伊福町)にも寄付金が相次いでいます。皆様のご厚意に感謝します。



#### ロヒンギャ難民

ミャンマー軍の迫害でバングラデシュに逃亡するロヒンギャ難民の歴史は1990年代にさかのぼる。AMDAは92年、難民約20万人を救うため医師団を派遣。2017年からは難民がさらに増加し、現在は約100万人にのぼると推定されている。仮設の難民キャンプは極度に劣悪な環境で、人々は食糧、飲料水がほとんど手に入らない状況。国連は「未曾有の緊急事態」と指摘し、援助の拡大を求めている。

## 東日本大震災から6年半 東北はいま…

南町紫神社前商店街事務局長・AMDA 参与 坂本 正人

宮城県気仙沼市は例年になくカツオ、サンマとも大不漁です。サンマにいたっては、昨年同期の4割程にとどまり、各船や買い受け業者からも悲鳴が上がっています。

町全体も活気がない年になっています。震災から6年半たち仮設商店街も4月30日に閉所されました。新設の「南町紫神社前商店街」は9月15日にプレオープンし営業を始めました。

さらに、まだ全店がそろっていませんが、先にオープンした魚町内湾商店街と一緒に11月11日、内湾街びらき（グランドオープン）を行いました。ここまで予想以上に長い時間を要し、思わぬ出来事や辛く悲しいこともありました。皆の心と心の絆が一層深まった気がします。

しかし、住居に関しても内湾地区は危険区域の指定がかかっており、もとの流された土地に家を建てるのに補助



金事業を受けられません。防災集団移転、高台移転、危険区域以外の土地に建てる人には、補助金が出ます。そういった中、離れた土地に家を建てる人が少ない状況です。

市は内湾を気仙沼の顔、観光の要とってくれていますが、住みたい人が家を建てられないのが現状です。何のための区画整理事業を行っているのか疑問を持ちます。

幸い気仙沼内湾地区には災害公営住宅を何棟か建てて

いただいています。5年をめぐりに「災害」の言葉がとれ公営住宅になっていきますので、収入によって家賃が上がっていき、もうすでに2倍以上の家賃を支払っている人も出てきていて、若い人たちには敬遠される原因でもあります。



南町紫神社前商店街 共同店舗

そんな中での商店街形成なので店主は大変ではありますが、内湾ににぎわいを取り戻す思いで頑張っています。

防潮堤も出来上がってき離島大島の橋も2019年には開通し、観光スタイルを考える時も迫っています。

震災前よりは観光の人も増えていますので、気仙沼に来る人達にも気仙沼の良さを発信し、商店街を核としながら住民ともどもにぎわいのある街に戻せればと思っています。

機会があればぜひ一度、気仙沼を見に来てください。



11月11日グランドオープンでのテープカット

## 被災者らが集い楽しく交流

AMDA 大槌健康サポートセンターセンター長 佐々木 賀奈子

AMDA 大槌サポートセンター（岩手県大槌町）は東日本大震災が起きた2011年、被災者らが集い、交流する場として発足しました。

現在はテーブルクロスやバッグなどの小物を作る人気の「さをり織り教室」をはじめ、木工教室、体笑教室、郷土料理・栄養教室などに取り組んでいます。10月からは新たに「一卷張り教室」が加わりました。50年以上前から地元でザルや箱に着物布や和紙を張り、柿渋を塗って生活用品として使っていたものに挑戦する試みです。

各教室ではお互いの体調を気遣ったり、家族の話や若い世代の方々に方言を説明したり、毎回集まることを楽しみにしている様子です。お昼は各自お弁当を持参です。おかずや漬物などを分けあって食べ、とてもにぎやかです。



さをり織りを楽しむ被災者たち

## 熊本地震 復興はこれからが本番



記者会見で復興に意欲を燃やす西村町長（左から3人目）

熊本地震から約1年半。被災地の熊本県益城町の西村博則町長が10月31日、AMDA本部（岡山市北区伊福町）を訪れ、医師や看護師らの緊急支援活動のお礼を述べるとともに「復興はこれからが本番。全力で取り組んでいきたい」と意欲を示しました。

西村町長は、出迎えたAMDAの難波妙理事と笑顔でがちり握手。再会を喜び合った後、記者会見に臨み、「4月16日の本震直後、私の人生はこれで終わったと感じた。と同時に、怒りと絶望感に襲われた。町民も同じ考えだっ

た」と振り返りました。

さらに「AMDAの存在は辛い私の心の支えとなった。生きる希望を頂いた」と述べ、「災害はいつ、どこでも起きる。備えの大切さを全国に訴えていくのが私たちの役割であり、恩返しにつながる」と強調しました。

続いて、町長は総社市秦のサントピア岡山総社で、片岡聡一市長から義援金を受け取りました。

同町長によると、被害が大きかった家屋の99%は解体を終えて更地となっています。各地域には順次、まちづくり協議会も発足していますが、町の再建には今後、約1,500億円が必要で、資金の確保が最大の課題となっています。

### 益城町職員に鍼灸治療

熊本県益城町では、2016年4月、震度7の前震、本震が相次いで発生。家屋約3千棟が全壊し、最大で1万6050人が避難する甚大な被害を受けました。AMDAは避難所となった広安小学校に救護所を開設するなどして総社市と合同で活動し、町総合体育館避難所が閉鎖した10月末に当面の活動を終了しました。現在は過労で疲れが蓄積している町職員の鍼灸治療に取り組んでいます。

## 九州豪雨で緊急支援チームを派遣

7月5日から九州北部で降り続いた大雨のため、10日現在で死者25人、行方や安否が分からない人が20人超で、1885人が避難する甚大な被害が発生しました。

AMDAと総社市は合同緊急支援活動を決定。6日夜に九州入りし、被害状況や避難者ニーズを調査しました。7日15時時点で7万人以上に緊急避難指示が出ており、AMDA・総社市・野口健（登山家）合同チームは、最も被害の大きかった福岡県朝倉市で活動を開始しました。最大の避難所となった杷木（はき）中学校は、180人が避難し、暑さ対策などが課題となりました。

孤立地区から自衛隊ヘリで搬送されてきた80代女性は「家が流され、もう住むことが出来ない」と話し、避難者の70代男性は「自宅が床上浸水し、立ったまま夜を過ごした」と疲れ切った表情でした。



避難所にて段ボールベッドの組み立て方を説明する野口健さん

### 初めての被災地

AMDA 職員 三宅 孝士



上空を舞うヘリコプター、サイレンを鳴らして走り去る緊急車両…。7月7日に福岡県朝倉市杷木地区に入った私は甚大な被害に驚き、胸が締め付けられる痛みを感じました。「早く被災者を救済したい」と強い焦りにも襲われました。断水は復旧のめどが立たず、住宅地や田畑などには増水で流されたごみや泥が散乱、感染症など衛生面の懸念が広がっていました。避難所の学校体育館も空調が効かず、熱中症患者の増加が心配でした。

赤磐市役所からAMDAに出向して約3カ月。初めての被災地での活動は、私にとってあまりにも過酷でした。一刻も早い復興を願っています。

## 相次ぐメキシコ地震で緊急支援活動

2017年9月、メキシコで続けて大きな地震が発生し、甚大な被害を及ぼしました。1度目は現地時間9月7日にチアパス州沖を震源とするマグニチュード8.2の地震で、同国南部のオアハカ州、タバスコ州の3州の広範囲に被害を及ぼしました。AMDAは9月11日に医療チームを派遣。13日に被害の大きかった地域の一つであるフチタンに到着。その中でも特に被害が大きく、貧しい5つの地域で、2日間で80人の患者を診療しました。

2度目の地震は、現地時間9月19日に同国中部プエブラ州を震源として発生。300人以上が犠牲となりました。首都メキシコシティでは多くの建物被害が出ました。AMDAは現地のニーズや活動の可能性を探るためメキシコシティ中心部、ソチミルコ、モレロス州の4つの村を訪問しました。いずれの場所も支援物資が過剰になっている状況を確認。無料診療も実施されており、現行の支援で賄えていることが分かりました。

一方、1度目の被災地であるオアハカ州では余震が続



オアハカ州フチタンにて支援物資を配布

き、被災者は長引く屋外での避難生活を送っており、引き続き支援を行いました。今回は食料品に加え、雨をしのぐための防水シートや大人用・子供用のおむつなどを配布しました。

## スリランカ洪水緊急医療支援活動

2017年5月にスリランカを襲ったモンスーンによる大雨で、同国南西部では洪水や地滑りによる被害が相次いで発生。AMDAスリランカ支部は、現地協力団体と協力し洪水発生翌日の5月26日から、コロンボの南東100<sup>km</sup>に位置するラトナプラとセイロン島南端にあるマータラで活動を開始しました。

6月7日には日本から調整員と看護師が合流。10日まで、ラトナプラ及びコロンボから南約40キロにあるカルタラで現地協力団体とともに患者115人の巡回診療に当たりました。学用品を失った子どもたちには両地域合わせて約810人に靴、水筒、弁当箱などを提供、両被災地域の約150世帯には蚊帳を配布しました。



支援物資を受け取った子どもたちと話す AMDA 看護師

### 編集後記

岡山、広島県内をエリアとする地方紙・山陽新聞に、連載企画「AMDA海外レポート」が掲載されています。世界32カ国にあるAMDA支部のうち、支部長ら12人が自ら執筆する初めての試みです。

ハイチやスリランカ、アフガニスタンなどの「平和」を阻害する内戦、テロ、災害、貧困の現状と課題に迫り、復興に熱意を燃やす支部長らの取り組みを紹介しています。

今年1月から毎月1回、掲載され、12月17日の「ボリビア」で最終回を迎えました。

今年も皆様には大変お世話になりました。心から感謝しています。

(Y・I)

### AMDAの活動は皆様からのご寄付で実施されています

認定NPO法人AMDAへのご寄付は寄付控除の対象になります。

ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできます。またPAYPAL決済も導入しております。詳しくはホームページをご覧ください。